

西緑地が楽しくなる本

『旅をする木』

星野道夫・著 文春文庫
文藝春秋社 (1999年)



緑地の花畑に青やピンクのかわいい花が笑っています。忘れな草・・・ forget me not. 小さな花が少しでも自分に気づいてもらうために、名前でもアピールしているのでしょうか。

この花がアラスカの州の花だと知ったのは、星野道夫さんの『旅をする木』から。強い風が来たらすぐに引きちぎられてしまいそうな小さな花が、厳しいアラスカの自然を彩っているなんて不思議です。でも星野さんによるとアラスカよりもっと自然条件の厳しいアリューシャン列島の山のガレ場でも咲いているそうです。木も生えず、絶えず冷たい風が吹きすさぶ過酷な土地に咲くワスレナグサは、ほとんど岩陰に這いつくばるように、小さな小さな花を咲かせるとか。

「ほほをなでる極北の風の感触、夏のツンドラの甘い匂い、白夜の淡い光、見過ごしそうな小さなワスレナグサのたたずまい・・・ ふと立ち止まり、少し気持ちを込めて、五感の記憶の中にそんな風景を残してゆきたい。何も生み出すことのない、ただ流れてゆく時を、大切にしたい。あわただしい、人間の日々の営みと並行して、もう一つの時間が流れていることを、いつも心のどこかで感じていたい。」

もうすぐ極北の地にも短い夏が訪れます。沈まぬ太陽の下で、今年も忘れな草は懸命に命の花を咲かせるでしょうか。



(小川)